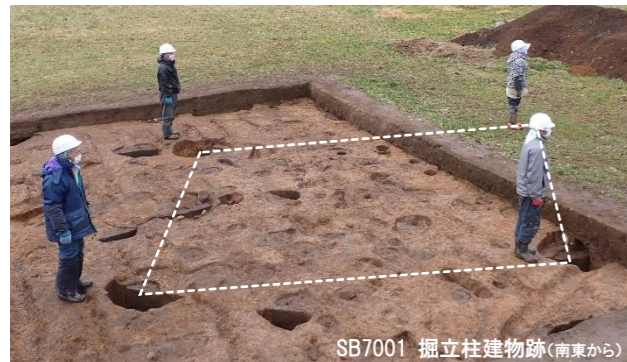


令和2年度 北上市発掘調査概要

北上市立埋蔵文化財センター

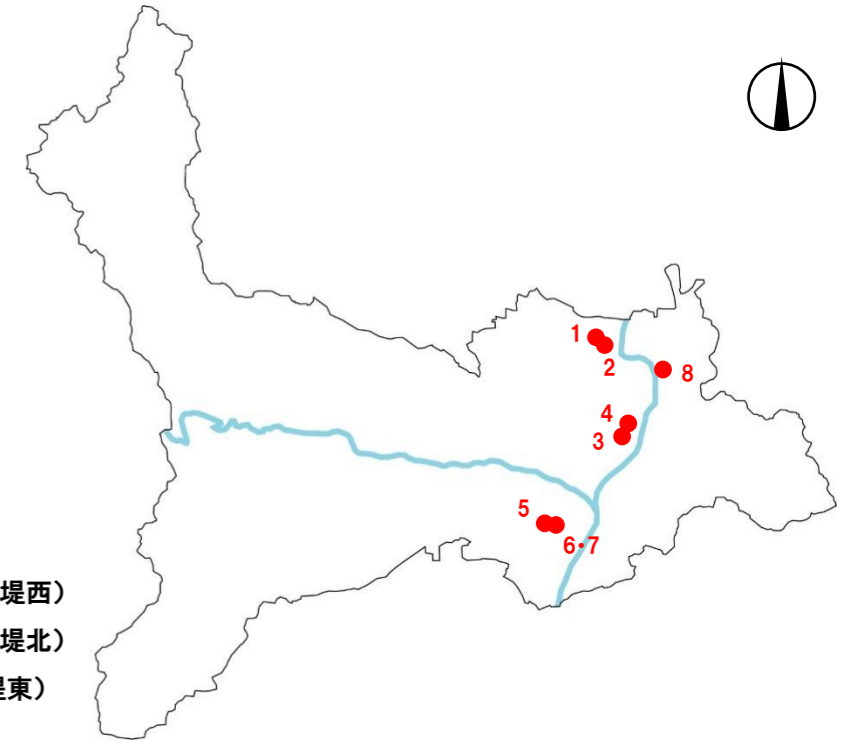
8. ^{ほってんいせき}八天遺跡 (国指定史跡：更木) 一約 4,500 年前の集落跡とその後に建てられた掘立柱建物跡—
調査期間 7月20日～12月18日 調査理由 内容確認 調査概要 これまでに6次にわたって調査が行われ、何度も建て替えられた大形円形建物跡と、耳・鼻・口形土製品 (重要文化財) などがみつき、国指定史跡となりました。今回の調査は、史跡の本質的な価値を再検討し、保存・活用する計画を作るために実施したものです。今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡や食糧貯蔵穴、掘立柱建物跡などがみつかりました。これらの時期から、縄文時代中期後葉～後期前葉 (約 4,500～4,100 年前) にかけて大きな集落が営まれたのち、後期中葉 (約 3,800～3,500 年前) には祭りの場や墓地へと、遺跡の性格が変化していったことがわかってきました。



はじめに

北上市立埋蔵文化財センターでは令和2年度、市内の8地点で発掘調査を行いました。道路建設、宅地造成などの開発により消滅する埋蔵文化財を記録保存するための調査が多いですが、史跡を保存・活用するための内容確認調査も行っています。発掘調査の成果をご覧ください、地域の歴史に思いを巡らせて頂ければ幸いです。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 馬場野遺跡(二子) | 5. 滝ノ沢遺跡①(大堤西) |
| 2. 二子城跡(二子) | 6. 滝ノ沢遺跡②(大堤北) |
| 3. 野田 I 遺跡(二子) | 7. 大堤東遺跡(大堤東) |
| 4. 岡島遺跡(二子) | 8. 八天遺跡(更木) |



1. ^{ばばのいせき}馬場野遺跡 (二子町) 一工業団地からみつけた中世の墓—

調査期間 6月1日～7月16日 調査理由 市道建設 調査概要 今まで存在を知られていない、中世の墓が1基みつかりました。1辺約18mの方形で、厚さ約1mの盛土により築かれた大型の墳墓です。墳丘の東側に掘られた溝には火を焚いた跡が1ヶ所あり、炭の中から15～16世紀頃に使用された銭がみつかりました。銭は合計6枚出土しており、いわゆる「六道銭」=三途の川の渡し賃とみられます。また、墳丘表面からは火葬された骨の破片も出土しました。二子城の一角にあることから、和賀氏に連なる人物の墓所と考えられます。



北上市立埋蔵文化財センター

〒024-0051 岩手県北上市立花 14-62-2 TEL: 0197-65-0098

2. ^{ふたごじょうあと}二子城跡 (二子町) —縄文時代の墓と近世の道—

調査期間 4月21日～6月19日 **調査理由** 市道建設 **調査概要** 縄文時代の土坑4基、埋設土器1基、近世の道路跡2基が見つかりました。縄文時代の土坑のうち1基は食糧貯蔵穴と考えられ、底面からはたくさんの土器が見つかりました。また、埋設土器の内部には赤い顔料が残っていました。人の骨はみつかりませんでした。赤い顔料は墓に伴うことが多いことから、今回みつかった埋設土器も墓として使われたと考えられます。これらは縄文時代後期後半～晩期前半(約3,000～2,500年前)のものと考えられます。

近世の道路跡は、2回の作り替えが行われたことが分かりました。道路跡の正確な時期は分かりませんが、江戸後期の絵図面にこの道路跡とみられる道が描かれていることから、今回みつかった道路跡は、江戸時代にはすでに利用されており、その後現代まで使われたものとみられます。



3. ^{のだいちいせき}野田Ⅰ遺跡 (二子町) —土器職人の住居跡—

調査期間 9月10日～29日 **調査理由** 住宅建設 **調査概要** 平安時代(約1,100年前)の竪穴住居跡が1軒見つかりました。住居床面中央には陶芸用のロクロを設置した穴があり、中には土器素材の白色粘土が埋められていました。このことから、住居跡は土器職人の工房兼住居だったことが分かりました。本遺跡の東側には奈良～平安時代(約1,200～1,100年前)に土器生産集落として栄えた千苺遺跡・中村遺跡があることから、本遺跡は両遺跡からの移住によりできた集落かもしれません。



4. ^{おかしまいせき}岡島遺跡 (二子町) —中～近世の村—

調査期間 12月11日～12月18日 **調査理由** 住宅団地造成 **調査概要** 岡島遺跡の発掘調査は、今回が2度目になります。以前の調査では、平安時代(約1,000年前)の竪穴住居跡が1軒みつっています。今回の調査では中世～近世とみられる建物の柱穴が、約50基みつかりました。時代を示す遺物が何もみつからないので正確な時期は分かりませんが、現在の集落へとつながる村の痕跡と考えられます。



5. ^{たきのさわいせき}滝ノ沢遺跡① (大堤西) —縄文時代前期の村の跡—

調査期間 6月8日～7月9日 **調査理由** 住宅建設 **調査概要** 縄文時代前期末(約5,000年前)の炉跡3基、柱穴状土坑群などの遺構のほか、縄文時代前期末～中期前半(約5,000～4,500年前)の土器が大量にみつかりました。調査地周辺は、この遺跡の中でも特に遺物が集中的に出土する場所で、今までに多数の建物跡や炉跡、食糧貯蔵穴が見つっています。調査地周辺は、遺跡が最も栄えた前期末頃、生活の中心域となっていたようです。

6. ^{たきのさわいせき}滝ノ沢遺跡② (大堤北) — 7. ^{だいつつみりがしいせき}大堤東遺跡 (大堤東)

—縄文時代の落とし穴と平安時代の村の跡—

調査期間 10月8日～11月17日 **調査理由** 住宅団地造成 **調査概要** 滝ノ沢遺跡では、今までに縄文時代の獣を捕える落とし穴や、平安時代の竪穴住居跡も多数みつっています。今回の調査でも、縄文時代前期(6,000年前頃)の落とし穴4基、平安時代(約1,100年前)の竪穴住居跡2棟などがみつかりました。相去台地では平安時代に入ると多数の村がつけられます。今回みつかった住居跡も相去台地を開拓した人々が居住したと考えられます。また、滝ノ沢遺跡の東に隣接する大堤東遺跡からも、落とし穴が1基みつかりました。縄文時代前期(6,000年前頃)、この一帯は狩猟の場となっていたようです。

